

私は、檜尾川「砂防ダム」という限り、上流の土砂が下流へ流れてくるのをせき止めて、檜尾川下流域の河床上昇を防ぐためのものだと思っておりました。しかし、前回の再評価委員会以降、大阪府茨木土木事務所が作成し新聞の折り込み広告の中にまぎれ込ませた「洪水と土砂災害につよい檜尾川をめざして」というチラシのNo. 2の「砂防ダムのしくみ」という項目を見ると、砂防ダムというものは、建設してから何年かたって満砂状態になって、さらにその上に堆砂し、土砂がどんどん積もっていったって、勾配がどんどん上がって、もとの河床勾配と同じになっても放っておく、そして、水平状態以上に堆積した土砂は、次の中小出水、つまり洪水で自然にダムの下流に押し流される、ということが書かれています。

ということは、砂防ダムをつくっても、満砂状態になって、どんどん積もっていったって元の河床勾配に達しても浚渫せず、あとは土砂が下に流れるのをそのまま放っておくと言っているわけです。そこにどんどん雨が降って、水が流れれば、土砂はオーバーフローして、日常的に下流へ流れ落ちていきます。また豪雨があると、その力で一挙に水平になるまで土砂を下流へ押し流してしまうということです。つまり、中小出水でダム自体は水平状態に復元するかもしれませんが、それまでたまっていた土砂は一挙に下流へ流れていくわけです。で、結局「砂防ダム」といいながらオーバーフローして、日常的に土砂を流し続け、いったん豪雨になると、一挙にどっと土砂を流す。それはつまりダムがないのと同じ状態であると思います。

チラシのNo. 1では、「上流の土砂が下流に流れ、そのために檜尾川は天井川になった。土砂を下流域に流さないためには砂防ダムが必要だ。」と書いておきながら、チラシNo. 2では、その「砂防ダム」は土砂を下流に流し続けるものであると書いてあり、私には、この「砂防ダム」というものがいったい何のためにつくられるのか、よく理解することができないのです。

非常に勾配のきつい山奥の急流の勾配をゆるくするために、幾つもの砂防ダムが階段状につくられています。これとて、それぞれのダムがすべて満砂状態になれば、結局、先ほど言いましたように、砂防ダムがもともとないのと同じ状態になってしまうわけです。それで、またさらにその上流や下流に新たに砂防ダムを建設しつづけ、それが結局は日本じゅうの渓谷の美しさを台無しにしているわけで、私は自然破壊という観点から急流に設けられる砂防ダムにも反対ですが、急流に砂防ダムをつくらうとする意図はわかります。しかし、檜尾川の砂防ダムは、その建設予定地は周りに田んぼがあった所で、決して急勾配な場所ではありません。したがって急な河床勾配を緩くする目的とは思えませんし、満砂状態以降は、あたかもダムがないのと同じように、土砂を下流へ流し続けるというダムを何のためにつくるのか、理解に苦しみます。ナンセンスでむだな事業だとしか思えないわけです。

再評価委員会の先生方にはぜひ一度現地を調査していただきたいと思いますが、この砂防ダムの予定地より数百m下流では、川岸の崖っぶちの斜面を削り、何十台もの古いパチンコ台やその他の産業廃棄物を積み上げた箇所が何カ所かあります。そして、正確な距離はわかりませんが、そこよりさらに1kmか2km下流には採石場がありまして、その細かい土砂が雨で川に流れ込んでいると思います。大阪府がどうしてもダムをつくりたいというのであれば、上流の山の中に、先ほど申し上げました常に土砂を流し続けるという「砂防

ダム」なるものをつくるよりは、これらの産業廃棄物の置き場や採石場のすぐ下流に小さなダムをつくって、そこにたまる土砂を常に浚渫する方がまだ意味があると私は考えます。

長い年月をかけて浸食と堆積を繰り返して、それなりに安定している自然状態のところへ、コンクリートで人工的に一時的にせき止めて、短時間に土砂を堆積させた場合は、不安定で、大雨のときにかえって土石流や洪水の原因になるおそれがあります。そして、何よりも生物循環を完全に遮断します。山陽新幹線でも問題になっていますが、コンクリートには耐用年数があって、将来こういう巨大な産業廃棄物として谷間に放置されるコンクリートの塊を残すべきではありません。それは後世の人にとって負の遺産になります。そういうものを安易につくって残すべきではないと考えます。

最後になりますが、私は昨年、大阪府茨木土木事務所へお伺いして、檜尾川の砂防ダムについていろいろと質問をして説明を受けたのですが、そのうちの質問の1つで、今でも忘れることができないやりとりがありました。

その中で私は、「計画では川の流れを完全に遮断するクローズドタイプになっていますが、生物循環とか自然環境に配慮して、スリット型の砂防ダムに変更するお考えはないのですか」と質問をしたのですが、担当の方は「そんなことはあり得ません。計画どおりクローズドタイプです」と答えられました。

私はすぐ「なぜそうなんですか。なぜクローズドタイプに固執されるのですか」という質問をしたら、次のように答えられました。「だって、スリットタイプだと、ダムの高さをもっと低くてもよく、つまりダムの上流の堆砂面積も少なくて済む。そうすると、既を買収している土地がむだになりますから」というお答えでした。

これには私も開いた口がふさがりませんでした。いったん計画した公共事業は絶対に止まらない、止めないという体制そのものがこの回答の中に具現化されているというふうに感じます。こういう発想こそ再評価委員会で審議されるべきだと私は考えます。